

臨地実習（がん看護学）

[実習] 2年 通年 選択 180時間 4単位

《担当者名》○熊谷 歌織 [kaori@hoku-iryo-u.ac.jp]
三津橋 梨絵 [mitsuhashi@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

がんサバイバー・家族に対する直接ケアにおいて、専門看護師および臨床指導医の指導のもと、エビデンスに基づく臨床判断能力および包括的な実践力を基盤とした高度な実践を修得する。状況に応じて、コンサルテーション、倫理調整、教育のいずれかを体験し、実践力を修得する。また、専門看護師として自己の課題を明確にする。

【学修目標】

1. がん治療あるいは緩和ケアを受けるサバイバー・家族に対して、既習の看護理論、診断や治療に関する専門的知識をエビデンスとし、包括的なアセスメント、問題構造の分析的な捉え、効果的な看護援助の提供ができる
2. がんの症状や治療に伴う有害事象をもつサバイバーに対して、病態生理学、フィジカルアセスメント、臨床薬理学等から妥当性のある臨床判断を行い、適切な身体管理および個別的な看護援助を提供できる
3. サバイバー・家族が遭遇する複雑な問題に対し、地域・在宅等の包括的な視点から看護援助を検討できる
4. 専門看護師としての役割を選択的に発揮しながら、サバイバーに関わる多職種メンバーと協働できる
5. 1～4を通して、専門看護師活動における自己の課題を洞察できる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	実習方法	<p>1. 臨地実習の成果およびの到達目標を踏まえ、自己の実習課題を明確にして、実習計画を立案する。</p> <p>2. 実習計画では、直接ケア、コンサルテーション、調整、倫理的調整、教育について、既習の知識を活用し、何をどのように取り組むのか具体的に記載する。</p> <p>3. 実習指導者および教員の助言を得ながら、実習計画書に添って実習する。</p> <p>4. 受け持ち患者の回診や症例カンファレンスに参加し、患者の病態、治療、痛み・症状に関するアセスメントおよびマネジメント方法について、臨床指導医から助言を得る。</p> <p>5. 実習記録については、各自で様式を作成する。日々実習内容や学びを整理し、適宜、実習指導者や教員から助言を得る。</p> <p>6. 中間カンファレンスの時期については、実習指導者、教員とともに調整し決定する。カンファレンスにあたって、実習生は実習での学び等について資料を作成する。</p> <p>7. 実習レポートの作成および提出に関しては、実習要項を参照する。</p> <p>主な実習場所 手稲溪仁会病院，斗南病院，KKR札幌医療センター</p> <p>実習期間 おおむね4週間とする。</p>	熊谷 三津橋

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

実習課題の達成状況(50%)、レポートおよびレポートのプレゼンテーション(50%)を総合的に評価する。

【教科書】

なし

【参考書】

随時提示する

【学修の準備】

既習の知識を復習し、関連資料および図書を熟読して臨む。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、看護学における高度な専門性と研究能力を修得するという看護学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。